

宮古市 B P R 実施方針

令和6年2月2日
総務部総務課

目 次

1 目的

- ・ 本実施方針の目的 P4

2 BPR実施方針

- ・ BPR成果目標 P6
- ・ 取組の方向性 P7
- ・ 自律的なBPR実施体制の構築 P8
- ・ BPR実施ロードマップ P9～P10

3 宮古市の現状

- ・ 本市の現状と課題 P12

<参考 BPRとは>

- ・ BPRの概要 P14
- ・ BPRの手順 P15
- ・ BPRの考え方 P16

1 目的

本実施方針の目的

令和4年度に全庁業務量調査を実施した結果、本市の特徴として次の課題が明確となった。

- ・宮古市の業務量(総作業時間数)は、人口10万人都市並み
 - ・類似自治体と比べ、資料作成、会議等に要している時間が多い
- 宮古市役所の残業時間が多く、業務工程見直しが必要

社会背景

- ・デジタル化の進展により、行政サービスのあり方が一変
 - ・2040年問題の到来。人口減少が進み、現在の職員数を維持できない
- 2040年には従来の半分の職員数でも自治体として担うべき機能が発揮できる仕組みを構築する必要がある(H30.7 自治体戦略2040構想研究会(総務大臣主催の研究会))

これら背景を基に、BPRの有効性を確保するため、次のとおり方針を定めるもの。

- ① 本市の現状業務について、軸となる課題を整理すること
- ② BPR実施効果の高いものから取り組むこと
- ③ 各所属において自律的・継続的にBPRに取り組むこと

2 B P R実施方針

B P R 成果目標

成果目標

行政運営の抜本的な簡素化・効率化を推進

⇒新たな行政ニーズに対応する体制を維持し、職員のワークライフバランスの向上を図る。

具体的目標

R4全庁業務量調査の結果、特に改善を要する事務について、次のとおり目標設定

「資料等作成・編集」、「調整・検討・協議」、
「周知・連絡・案内」
・・・類似団体(B市)並みの業務量を目指す

作業分類	宮古市 (4.8万人)	A市 (4.9万人)	B市 (4.76万人)
資料等作成・編集	156,995	53,542	50,437
調整・検討・協議	43,756	28,195	17,055
周知・連絡・案内	23,817	14,269	8,996

「データ入力」・・・7割減を目指す

本市のデータ入力業務量・・・132,896h



紙使用減、ICT活用等により、39,868h へ

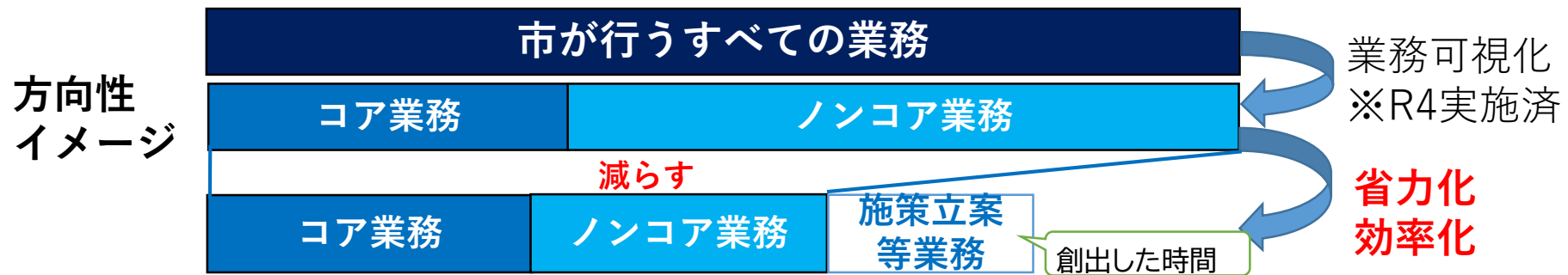
取組の方向性

B P R の方向性

- ・BPRを推進し、**業務全体の作業時間を削減。**
- ・特に「**職員でなくてもできる業務(ノンコア業務)の作業時間の割合**」を減らす



「職員でなければできない業務(コア業務)」に注力できる環境の実現を目指す



具体的方向性

①最初に、業務負担が特に大きく、BPR効果が高いと見込まれる業務から取り組む。

- i データ入力 ※典型的なノンコア業務。事務改善が急務
- ii 各所属が「ムリ・ムダ・ムラ」と感じている「資料等作成・編集」「調整・検討・協議」「周知・連絡・案内」

②その後、各所属においてBPR実施効果の高い業務から順に、自律的なBPRに取り組む。

自律的なBPR実施体制の構築

B P R研修の実施、B P R取り組み事例の周知等を行い、各所属が自律的かつ継続的にB P Rに取り組めるよう、仕組みを構築する。

①BPR研修の実施

⇒ ・全職員がBPRの必要性を理解し、改革意識の向上を図る。

★ DXマインド研修、BPR研修（座学・実践演習）などを実施

・職員1人1人のI T・I C Tスキルを向上し、業務量の削減を図る。

★ LoGoフォームなどデジタルツール活用研修、Office基礎・応用研修を定期的の実施

・職員にBPRマインドの浸透を図る。

②総務課、デジタル推進課において、改善方法等の助言、支援を継続

⇒ ・各課からの相談に随時対応。総務課、デジタル推進課と協働でBPRに取り組む

・これから発生する新規業務に対し助言や支援

・スモールスタートとしたものをTo-Be化へ移行支援

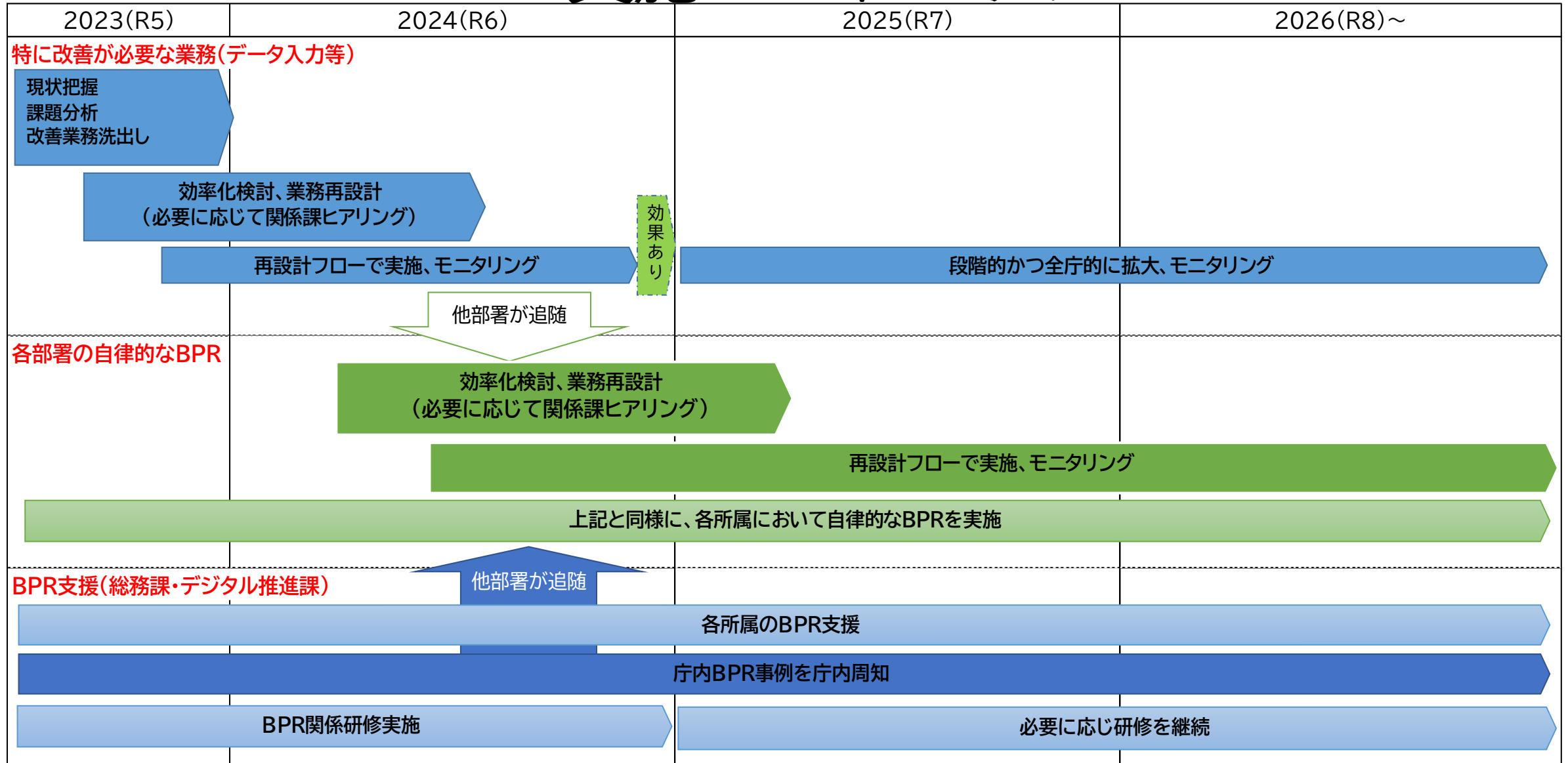
③総務課において、庁内BPR事例等を庁内LAN全庁掲示板で周知。

⇒各部署のBPR実施機運を高め、追従を促す ⇒BPRを継続化

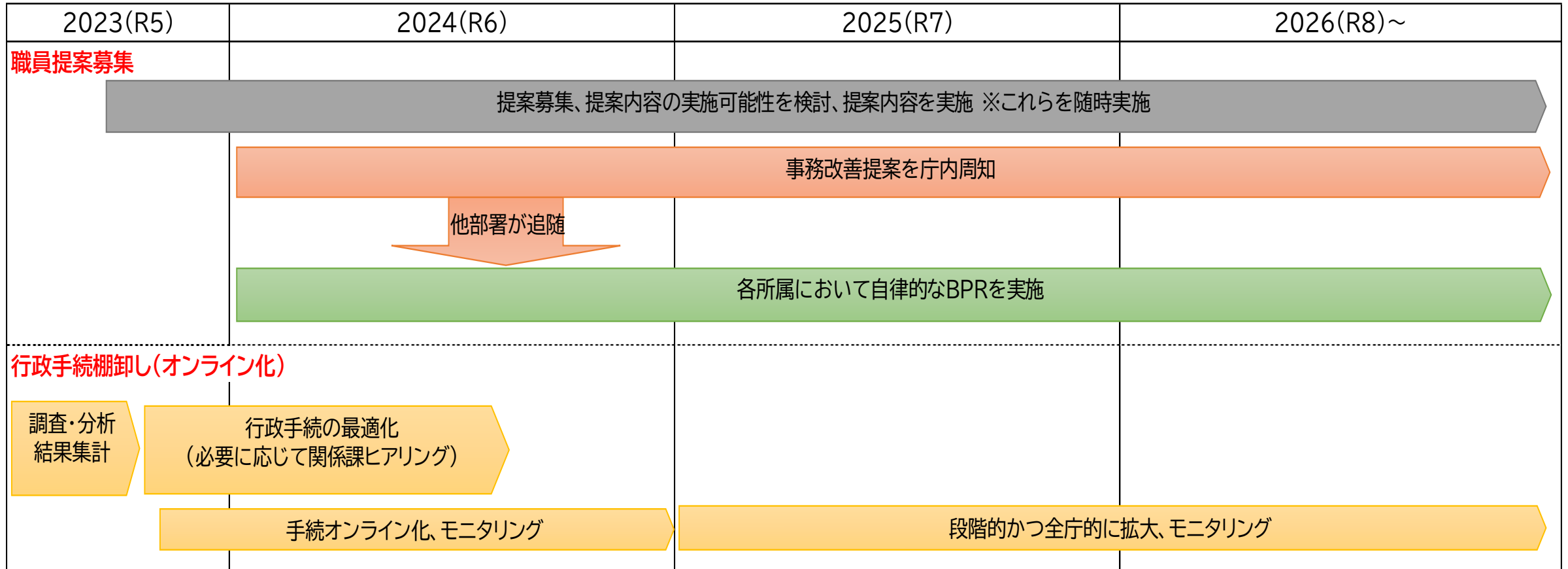
④職員提案制度を活用。職員から業務改善案を募集

⇒提案のあった改善案を庁内LANで周知。職員の業務改善を促進

BPR実施ロードマップ



BPR実施ロードマップ



3 宮古市の現状

本市の現状と課題

現状と課題

- ・一部の業務が属人化(担当者でなければ対応できない)
- ・定型業務マニュアルの整備が不十分
- ・事務引継が円滑に行われてない
- ・スクラップアンドビルドが徹底されてない
- ・データ手入力に多大な時間を要している
- ・業務が可視化できておらず、業務量の把握が困難
- ・事務分掌が硬直化。部署により残業時間の多寡に差あり
- ・人口減少が進み、職員数も減少しているのに、業務量が増加 ※2040年問題に対応できない

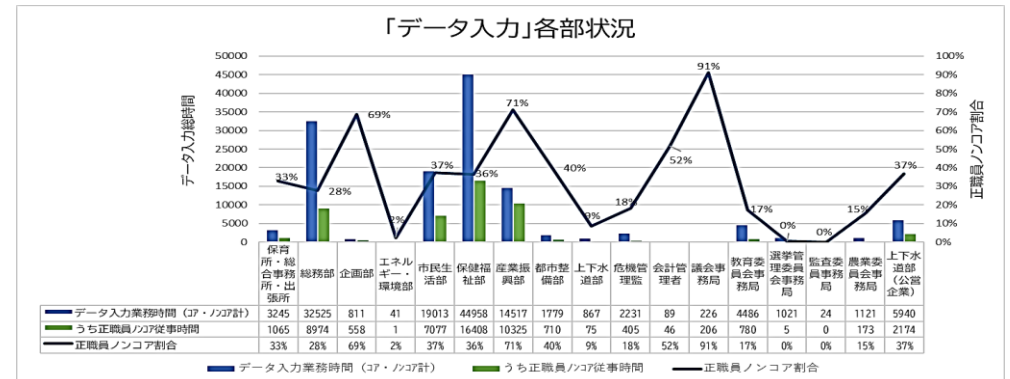
R4全庁業務量調査で分かったこと

下記業務は本市と人口規模が近い自治体と比べ、
約3倍の業務量

※ 10万人都市並み業務量の一因に

作業分類	宮古市 (4.8万人)	A市 (4.9万人)	B市 (4.76万人)	
資料等作成・編集	156,995	53,542	50,437	3.1倍
調整・検討・協議	43,756	28,195	17,055	2.6倍
周知・連絡・案内	23,817	14,269	8,996	2.6倍

データ入力業務量の総計は132,896h
※紙使用も多く、業務圧迫の一因に



参考 B P Rとは

B P R の概要

ビジネス

プロセス

リエンジニアリング

BPR・・・Business Process Re-engineeringの略語

⇒「業務改革」や「業務再設計」の意。ビジネスプロセスを見直し、抜本的に再設計する手法

- ・ **地方自治体を取り巻く環境は急速に変化。人口減少社会は既に到来**
⇒職員が減少するなか、引き続き、質の高い行政サービスを効率的・効果的に提供する必要あり
- ・ **物価高騰対策など、新たな行政サービスを次々行っている状況。既に業務量がパンク状態に**
⇒抜本的な行政運営の簡素化、効率化が急務



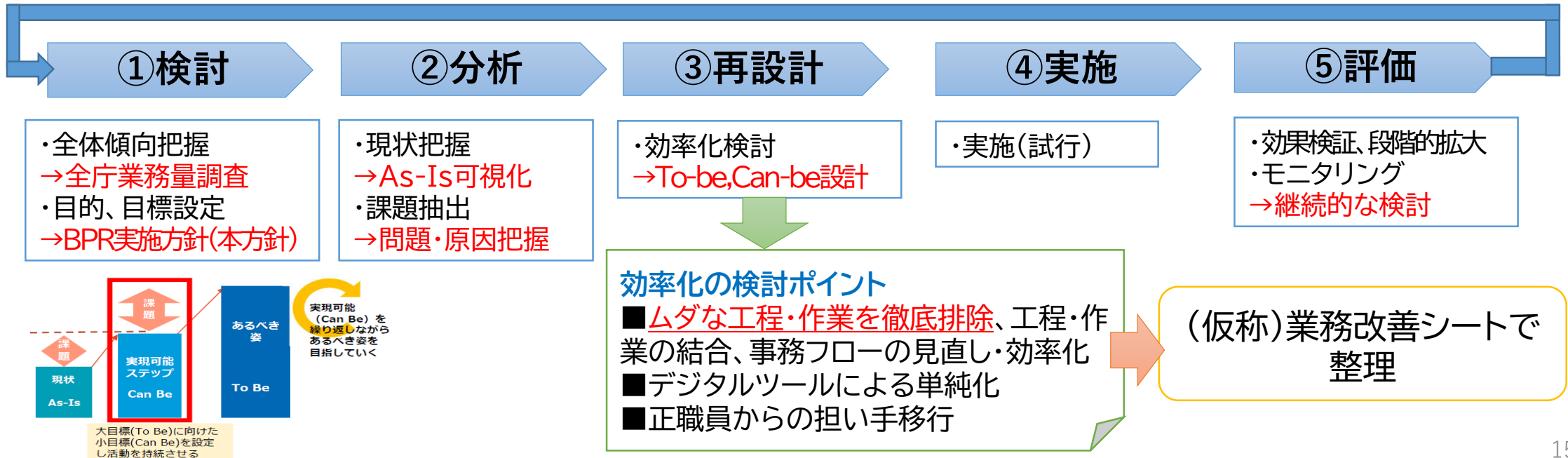
BPRにより、抜本的な行政運営の簡素化、効率化を実施

※時間外勤務を削減し、働き方改革を推進

※多様化する住民ニーズに対応しつつ、ワーク・ライフ・バランスも実現

B P R の手順

- ①全庁業務量調査結果を把握。 ※R4から実施中
- ②各所属において分析(各業務にムリ・ムダ・ムラがないか...)。課題を抽出
→・BPRの必要性が高い業務を抽出
・所属長は積極的にフォロー。異動1, 2年目職員の率直な意見を聴く。
- ③抽出した業務を再設計(各所属において再設計、関係部署ヒアリング等により具体化)
- ④BPR効果の高い事務から順次、業務改革を実施
- ⑤モニタリングを実施

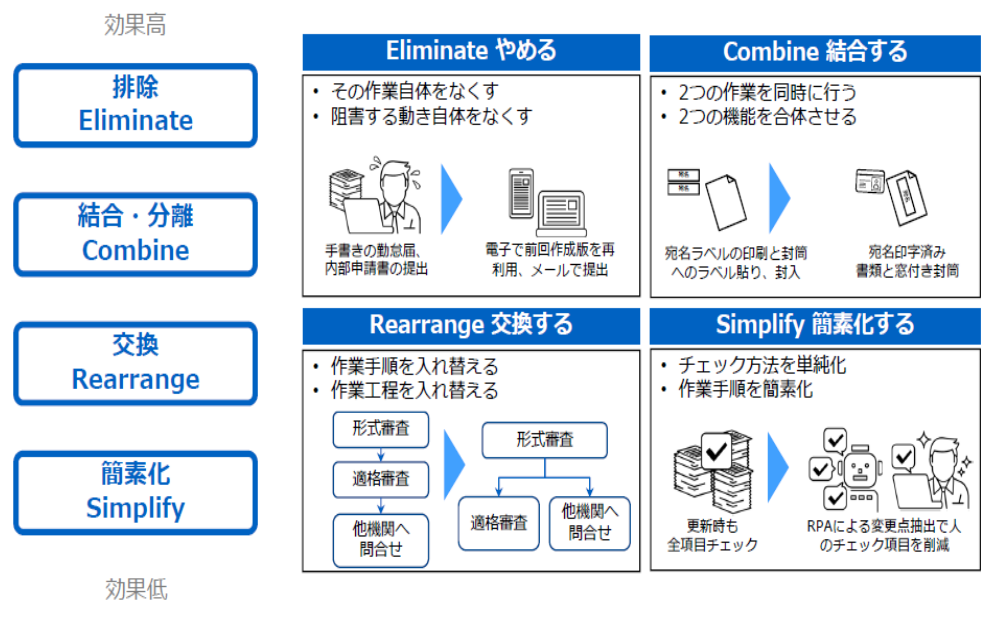


B P R の考え方

ECRS(イクルス) の4 原則

Eliminate（排除）、**Combine**（結合）、**Rearrange**（交換/順序替え）、**Simplify**（単純化）の頭字を取ったもの。
ムリ・ムラ・ムダを排除し、作業の効率化を目指す。

- ① **Eliminate（排除）** …やめることができないか？ → **まずは、捨てられる仕事を捨てる！**
- ② **Combine（結合）** …くっつけて一緒にすることができないか？ → **捨てられなければ、他の仕事と結合させて一緒に片付ける！**
- ③ **Rearrange（交換/順序替え）** …取り替えや順序を変えたりできないか？ → **結合できなければ、他のやり方や順序に交換してより良い方法に置き換える！**
- ④ **Simplify（単純化）** …プロセスや作業をシンプルにする。 → **交換もできなければ、とにかくできるだけ簡素にする！**



BPRを実施すれば・・・

- ・ **仕事が減って職員が楽になる**
- ・ **市民も手続きが楽になる**

実現のため職員が心掛けること

① BPRをゼロベースで考える

② 第三者目線で考える

③ 私情を捨てる

④ BPRできない理由ではなく、「できる理由」を考える